

5/24  
福井

# 熟議遠く「廃案に」



## 反対市民 国会周辺で抗議

# 手続き、内容に憤り

「民主主義の根底が揺らぐ」。捜査機関による乱用への懸念が拭えないまま、23日、「共謀罪」法案が衆院を通過した。テロ対策を強調するばかりで、法相答弁は迷走。審議は熟議と程遠く、時間だけが流れた。衆院法務委員会に続き、数の力を誇る与党は反対意見を押し切って採決を強行。憤る市民は参院での廃案に向け、拳を掲げた。

法案に反対する市民ら約2400人（主催者発表）が議員会館前で抗議集会を開き、「言論封じの共謀罪は必ず廃案にするべきだ」と声を張り上げた。

参加者は「共謀罪NO!」などと書かれたプラカードを手にし、通路を埋め尽くした。横浜市の無職遠山滋さん（68）は「議論が尽くされていないのに強行採決し、あせんとしている」と怒りをあらわに。「子どもや孫の世代に言論の自由がどんどん縛られていきそうで心配だ」と懸念した。

座り込みに参加した千葉市の夏目信男さん（64）は「法案に反対の意思を示すために来た。手続きも内容もすべて強行的に採決するのはおかしい」と訴えた。

「民主主義の根底が揺らぐ」。捜査機関による乱用への懸念が拭えないまま、23日、「共謀罪」法案が衆院を通過した。テロ対策を強調するばかりで、法相答弁は迷走。審議は熟議と程遠く、時間だけが流れた。衆院法務委員会に続き、数の力を誇る与党は反対意見を押し切って採決を強行。憤る市民は参院での廃案に向け、拳を掲げた。

### 怒号と拍手

### 議場は騒然

組織犯罪処罰法改正案が賛成多数で可決された23日午後、衆院本会議。「断固反対」「必要だ」。議場は採決の強行に抗議する野党議員の怒号と、与党議員の拍手が入り交じり、騒然とした雰囲気包まれた。安倍晋三首相は賛成票を投じ周囲の自民党議員と談笑してみせたが、野党議員の怒りは散会後も続いた。

採決に先立ち、賛成と反対に分かれて行われた討論では、与野党が激しいつばぜり合いを繰り広げた。「数の力で押しやるのは認められない」。壇上で野党議員が訴える反対意見にかき消せるように、与党側から「的外れだ」「違っ違っ」とやじが飛び、一方、自民党議員が「丁寧に答弁し、国民から支持されたと確信している」と訴え、野党側は「おかしい」「なぜそう言えるのか」とやじ返した。

昨年解散した若者グループ「SEALDs（シールズ）」元メンバーらが結成した「未来のための公共」も国会前で集会を開き、「テロ対策とつ

そをつくな」とリズムに乗って主張。東京都八王子市の大学4年の男子学生は「自分の意見が言えなくなってしまう」と話した。強い日差しが照りつけた白